

全国に1万社余りある旅行会社のうち、圧倒的多数を占めるのは従業員数50人以下の中小企業だ。少数の大手企業が強い業界で、各社はそれぞれの営業戦略を模索している。

そんななか、自社の強みを生かし、専門分野に特化した業務を行っている企業に注目し、現状と展望を紹介する。4回目は、バリアフリー旅行向けの人材派遣、手配・主催を行うSPIあ・える倶楽部(東京都渋谷区)の篠塚一社長に話を聞いた。(編集部)



篠塚社長

別会社の一事業部で専門的に取り組み始めたのを開いていた添乗員派遣事業を独立させ、91年に会社を設立。現在、添乗員約100人と、「トラベルヘルパー」約260人が登録している。彼らの

### SP1あ・える倶楽部

ように付き合いの長い旅行客たちが70~80歳代に

さしかかり、通常のツアーへの参加が難しくなってきた時期でもあった。「大切なお客様たちに今まで

## 専門分野で生き残る

### シリーズ 中小旅行業 ④

派遣業務と旅行手配に加え、「ほとんど手配に近い」主催旅行の取り扱いを社員5人でこなす。年間取扱額は約7千万円。バリアフリー旅行を専

門的に取り組み始めたのを開いていた添乗員派遣事業を独立させ、91年に会社を設立。現在、添乗員約100人と、「トラベルヘルパー」約260人が登録している。彼らの

を整えていった。

「家族の代わり」に

98年からは、旅行中の付き添い・介助を行う「トラベルヘルパー」制度を開始。旅先の活動内容に合わせて全国の登録ヘルパーを派遣し、「家族に代わって」手助けする。包括的な介護旅行も、明快な料金体系が好評だ。

旅行は生活の一部

現在約9千人が登録している会員組織「あ・える倶楽部」を今年1月から会費制にした。会費収入は主に旅行代金として還元する計画で、1割を会報発行などの通信費、もう1割を教育研修費に充てる。

トラベルヘルパーは全員がヘルパーの資格を持っているが、依頼客のなかには、介助は不要だが話し相手がほしいという人も少なくない。そうしたニーズに対応するため、今春から「ボラバイト」向けの研修制度をスタートさせる。「ボラバイト」はボランティア

篠塚社長の長期的な目標は、介護保険に「トラベルヘルパー」の利用が含まれること。「ちよっと様を見たり、友達と会ったりするだけで、気持ちが豊かになる。今の日本で旅行は生活の一部だということを認めてほしい。

## 高齢でも楽しめる旅を

報酬よりも体験を求めて行うアルバイトのこと。人件費の削減も期待できる妙案だ。学生など「マインドのある人々」に無料で研修を行い、例えは、高齢者が遠方の結婚式に出席する際の付き添いなどにも派遣していく。